

論文番号 38

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Relationships between Cigarette Smoking, Alcohol Drinking, the ALDH2 genotype and Adenomatous Types of Colorectal Polyps in Male Self-Defense Force Officials

男性自衛官における喫煙、飲酒、ALDH2 遺伝子型と腺腫型大腸ポリープとの関係

執筆者

Takeshita T, Morimoto K, Yamaguchi N, et al.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Journal of Epidemiology, 2000 Nov; 10(6): 366 - 371

キーワード

大腸がん、飲酒、アルデヒド脱水素酵素、

要旨

アルコール摂取は喫煙と同様に大腸ポリープの発生に関係している。日本人や中国人、韓国人などのアジア人ではアルコール摂取量を制限するアルデヒド脱水素酵素の遺伝子多型が高頻度に認められる。今回の研究では日本の自衛隊員を対象に大腸ポリープに関して多型と生活習慣の関係を検討した。対象者は全員、退職時健診で大腸内視鏡を受けた。ALDH2 の遺伝子型については PCR 法と RFLP 法を用いて調べた。ALDH2 遺伝子型の頻度は大腸ポリープを有する群 (n=69 人) とポリープが認められなかった群 (n=131) で差がなかった。喫煙は ALDH2*1/*1 の群において大腸ポリープの発生と関係があった (オッズ比: 4.7、95%信頼区間=1.9-11.5)。

ロジスティック回帰分析では、喫煙とアルコール摂取の相乗効果が認められ、アルコール摂取は大腸ポリープの発生を高めることが明らかになった (オッズ比: 9.9、95%信頼区間=2.9-34.1)。しかしながら、多量アルコール摂取者の人数が多くなかったため、ALDH2 欠損型の群では大腸ポリープの発生における喫煙とアルコール摂取の相互関係を評価できなかった。遺伝子を分析することは環境因子の影響を評価する際に有用であると思われる。